

平成25年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園理事長

木の実幼稚園園長 今川公平

○本園の教育目標

1, 生活指導上の基本目標

- ・ あいさつが出来る ・感謝の気持ちを持てる ・けじめがつけられる ・自分のことは自分で出来る
- ・ 友達のことを思いやる事が出来る

2, 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。

～造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。

3, 自分で考え、行動できる子どもを育てる。

～いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。

4, 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びの工夫できる子に育てる。

5, いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A, 本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	「丁寧な保育」の実践
2	新しい園舎・保育室を生かした保育室の環境作り
3	新しい園庭環境を生かした保育の構築
4	幼稚園の広報体制・内容の刷新

B, 評価項目の設定理由

項目	内容
1	全ての教員が「どの子にとってわかりやすい」保育が出来ているか、また一つ一つの活動や遊びが子どもの「学び」になっているかを理解し、確かめる事が出来ているかどうかを振り返る事が保育内容の質の向上、即ち「丁寧な保育」の実践になる。今年度はこの観点から全教員のスキルアップを図りたい。
2	平成24年度末に全ての保育室の新築と改修を完了したが、新しい保育室のデザインと特性を生かした環境作りを行う必要がある。
3	新運動場、果樹の丘、ビオトープ等が完成し、また畑が復活するなど新しい園庭環境が整備されたので、これを保育の中でどのように生かしていくかが課題である。
項目	内容

4	年々保護者から幼稚園発の情報についての要望が高まっている。Web情報の充実とペーパーによる良質な情報の迅速な発信が望まれているので、両者の特性を生かしたバランスの良い活用が必要である。
---	--

C、評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	本園では既に過去20年以上に渡る教育課程の改善と保育技術の向上の実績があるが、現在、幼児教育界では子どもの学びを保育の中でどう保証していくかという事が大きな課題となっており、「遊びの中での学び」についての一層の保育者の理解と実践が必要となっている。また、より一人一人の子どもの育ちと発達を理解し、子どもの思いを引き出しながら「対話型の保育」を進めることが本園でのプロジェクト型保育の基本であり、目標であるが、この両方の課題を確実に今年は進めていきたい。この為に、今年度は特に園内研修を充実させ、園長の講義による共通理解、園長・主任による全教員の保育評価・振り返りと、教員の自己課題の設定、改善項目の設定などを確実に行き、「丁寧な保育」を目指す。
2	既に昨年度から新しい保育室環境が整備され、全ての保育室と子どもアトリエが完成した。新しい保育室では、可動する家具、積み木台が用意され、空間を仕切れる3種類のスクリーンも整った。また西園舎・北園舎では可動する照明や鏡、マグネットの壁、ミニアトリエ等の新しい設備も整った。各クラスでは、これらの設備を活用し、保育のねらいに沿った保育環境のデザインを各教員が一層工夫し、プロジェクト型保育がより進められるよう日々努力する事が求められる。優秀なクラス環境については、園内研修で紹介し、学年で工夫を共有する。
3	屋外環境についても、南側新運動場の広さを生かした体育遊びの工夫、東側運動場に新設したリンゴやミカンなどの果樹の丘やお話の家の活用、中央運動場に造成した川のあるビオトープなどを取り入れた新しい指導計画が必要である。全クラスでの利用方法の統括、ビオトープや果樹の管理については、子どもの参加も取り入れた年間計画を作っていく。
4	25年度内に新しい内容、デザインのホームページを作成し、8月末までに移行する。新しいホームページでは教員のブログの充実、ウェブでの各種申し込みシステムの構築など大幅な内容の更新を行う。また紙媒体でのお知らせについては、配布時期を出来るだけ早め、よりわかりやすい内容への改善などを行う。

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は25年度末 26年3月に実施する。